



◀石坂の森での除草作業の様子



▶地球観測センターでの除草作業の様子



◀石坂の森での桜の補強作業の様子



▶地球観測センターでの、桜の補強作業の様子



NPO 法人里山環境プロジェクト・はとやま 鈴木代表のコメント

高校生は、はつらつとしていて、若い人たちとこうして里山の保全をできるのはとても嬉しいです。
里山の保全は今後もつなげていかなければならない活動であると思います。第一のバトンは、今までの活動から高校生につなげていけていると思います。高校生は今後、次の世代に、里山の保全をつなげていって欲しいと思います。

AXAから管理委託されている一般財団法人リモート・センシング技術センター（RESTEC）の皆さんの協力や指導のもと、鳩山高校の生徒たちは、周辺の除草や、サクラの支柱を交換する作業に取り組みました。
生徒たちは、嫌の使い方などを一から教えていただきながら、夏の暑い日差しの中、一所懸命に作業に取り組みました。
ハトミライ☆プロジェクトは、主に生徒会の生徒が中心となり行われていますが、除草作業や植樹

作業には、毎回有志で参加する生徒もいて、中には事業に連続で参加している方もいます。
生徒会会長の市川さんは「ハトミライ☆プロジェクトを通じて、町や地域と関われるのは嬉しい。桜は咲いたらきれいでしょ、桜の植樹は形に残るので良いと思う。数年後に桜が大きくなってくれていたら嬉しい」と話してくれました。また生徒会副会長の原野さんは「除草作業は暑かったし、大変でしたが、草を刈ってきれいになって良かったです。桜が今後も育つ



▲作業が終わり、水分補給をしてほっと一息

てくれたら良いと思います」と話していました。
石坂の森や地球観測センターを訪れた際には、生徒たちが植樹し、手入れをしている桜の様子も、ぜひご覧ください。

遠くに行けなくても子どもたちが 鳩山町でつくった



たくさんの夏の思い出

特集レポート

鳩山町では新型コロナワクチン接種が進んでいますが、埼玉県では新型コロナウイルス感染症の影響から、県境をまたぐ外出の自粛や、大きなイベントの中止など、夏休み子どもたちにも大きな影響が生じました。そのような状況の中でも、町内で行った事業に参加した子どもたちの笑顔は輝いていました。今月号では、感染対策に注意しながら取り組んだ町内の事業を紹介します。

ハトミライ☆プロジェクトとは

埼玉県立鳩山高校とともに、平成29年度に立ち上げたプロジェクトです。

鳩山高校では東日本大震災以降、夏と春の年2回、復興ボランティア活動を行ってきました。活動を通して「はとやま」「鳩高」「ふくしま」を結ぶような、たくさんの笑顔を咲かせることができればと、この事業が始まりました。

「30年後の鳩山を桜の名所へ」という思いを込めて、毎年桜の植樹活動を行い、その植樹された桜が、大きく成長し、多くの笑顔につながることを願っています。

また、鳩山高校では地域活動を通して、里山環境保全など、学校の中では学べないことを経験する取り組みも教育活動の一環として行っています。

■問合せ 役場政策財政課 ☎296-1212

ハトミライ☆プロジェクト ふくしまサクラの 除草作業等を行いました

鳩山高校の生徒会を主体に、地域活性化ボランティアの一環として行われている「ハトミライ☆プロジェクト」では、毎年3月に桜の植樹を行っています。
令和2年度からは、里山環境保全と連携しながら、桜の苗木周辺の下草刈り作業を行っています。
7月20日（火）には、石坂の森及び、地球観測センターの除草作業を行いました。地球観測センター

には、令和2年3月25日に植樹した「ふくしまサクラ」（八重桜1本、枝垂れ桜2本）が、また、石坂の森には、平成31年3月27日に植樹した「ふくしまサクラ」（ヤマザクラ10本中6本が活着）があるためです。
当日は、石坂の森を町から管理委託されている「NPO 法人里山環境プロジェクト・はとやま」の皆さんや、地球観測センターをJ



パラリンピック採火イベント 火起こし体験を行いました

8月18日(水)午後1時から、鳩山町泉井交流体験エリアにて、「パラリンピックを応援する鳩山の火の採火」が行われました。

参加した子どもたちは、まず火起こしの名人である並木氏から、火起こしの歴史と、技法の説明を受け、実演を見学しました。その後、二人一組になり、並木氏や埼玉県埋蔵文化財調査事業団の栗岡氏、町職員による指導のもと、実際に鉄に火打石を打ち付けて起こした火花や、舞錐式火起こし器で火を起こす体験をしました。

火打石も、舞錐式火起こし器も、火を起こす際には力があるため、子どもたちは、汗びっしょりになりながら、苦労して火を起こしていました。

子どもたちが各自起こした火は、ナイアガ



火起こし名人である並木氏の実演を見てから、子どもたちは火起こし体験をしました。



◀舞錐式火起こし器による、火起こし体験の様子。汗びっしょりになりながら、一所懸命に行っていました。



▶火打石による、火起こし体験の様子。火花を出すのに苦労していました。



▶子どもたちが起こした火は、埼玉県障害者アーチェリー協会、小林副会長の手により、「鳩山の火」として取り出されました。

ラ花火を使って一つにまとめられ、パラリンピックを応援する「鳩山の火」として、埼玉県障害者アーチェリー協会、小林副会長の手により取り出されました。

舞錐式火起こし器による火起こしを体験した子どもたちからは「大変で疲れたけど、楽しかった」「煙が出て煙かった」などの話が、また火打石による火起こしを体験した子からは「ずっと楽しみにしていたので、良かった」という話が聞けました。

パラリンピック聖火リレー 聖火ビジット(展示)を行いました

8月18日(水)に鳩山町泉井交流体験エリアで採火された「鳩山の火」は、翌19日(木)に役場庁舎内での出立式を経た後、朝霞市の朝霞中央公園陸上競技場に運ばれました。そこで、他の市町村の火と合わさり、埼玉県の聖火となりました。

埼玉県の聖火の一部は朝霞市で鳩山町にも分けられ、鳩山町役場1階ロビーで、8月19日(木)の午後1時から午後5時まで(鳩山の火とともに)展示しました。



「ニュータウンふくしプラザ」と総合福祉センター内「常設型サロン」で 夏休み小学生・中学生学習支援を開催しました

8月2日(月)～6日(金)にニュータウンふくしプラザで、23日(月)～27日(金)に、総合福祉センター内の常設型サロンで、「夏休み小学生・中学生学習支援」が行われました。この事業は、夏休みの小・中学生の居場所作りとして、町社会福祉協議会が、学習スペースを提供したもので、教員経験等のある地域のボランティアが子どもたちの学習をサポートしました。

8月2日(月)の午前中には、ニュータウンふくしプラザに4人の小学生が来所し、夏休みの宿題に一所懸命取り組んでいました。小学生たちは「ここで宿題をやると集中してできる」「みんなで宿題をやると楽しい」と話していました。

ニュータウンふくしプラザと総合福祉センターでは、常設型のサロン(気軽に集まれる場)を実施しています。小・中学生を含め、どなたでも利用できますので、ぜひご利用ください。(詳細は17ページをご覧ください)



▲8月2日(月)午前中にふくしプラザで学習していた、(左から)黒澤明海さん、高橋桃乃さん、黒澤明星さん、高橋瑛実さん



▲家で宿題を行うよりも、集中して取り組めると話していました。



▲宿題で分からない箇所があると、教員経験のあるボランティアが学習サポートをしました



鳩山町泉井交流体験エリアで 宝石石鹸ワークショップを行いました

7月29日(木)に鳩山町泉井交流体験エリアで、指定管理者主催による宝石石鹸ワークショップが開催されました。

宝石石けんとは、透明グリセリンソープに好きな色を組み合わせで作成するデザイン石けんです。湯せんで溶かしたグリセリンソープに、各自、好きな色や香りをつけ、容器に流し込み、固める工程を繰り返し、青や黄色、赤など、色とりどりのスイカの宝石石けんを作りました。

参加者は、石けんが熱いうちに流し込む作業や、スイカの種を作る作業に手間取ったりすることもありましたが、親子や友だち同士、楽しんで作っていました。

鳩山町泉井交流体験エリアでは、年間を通して様々な事業を行っています。ご興味のある方は、下記までお問合せください。

■問合せ 鳩山町泉井交流体験エリア
☎ 298-8899



▲子どもたちが作った、スイカの宝石石けん

▲石けんが固まらないうちに、素早く丁寧に、容器に流し込んでいました。